

小学校第五学年 国語 「推薦する文章を書く」

○ 解答例

一 【資料A】

人間

【資料B】

カラス

二

【例 1】

野口雨情は、まだ七歳の息子と別れて暮らすことになりました。これは、大切な息子のことを心配に思い、カラスの親子と重ね合わせながら書かれた詩です。子を思う親の気持ちがあふれています。ぜひ読んで下さい。(九十八字)

【例 2】

カラスの鳴き声を「かわいい」と息子に教えた野口雨情。カラスのことを話しながら、実は息子のことを「かわいい」と言ったのです。親のやさしさがぎゅっとつまった、すばらしい作品です。みなさんも読んで下さい。(九十九字)

○ この問題でつけてほしい力

- ① いくつかの資料をくらべて読み、必要な内容を取り出すこと。
- ② 取り出したことを生かして、推薦文にまとめること。

○ 問題の考え方

一 【資料A】の、次の部分に注目します。

「カラスの親子と重ね合わせながら」

野口雨情は、「カラスの親子」を何と重ね合わせたのでしょうか。

【資料A】からは、

- ・ 別れて暮らすことになったまだ七歳の「大切な息子」
- ・ 作者である野口雨情

だと読み取ることが出来ますね。つまり、息子と雨情の親子なのです。ですから、ここでの「可愛七つの子」は、人間 となります。

【資料B】は、次の部分に注目します。

「カラスのことを人間をかわいいがるようなまなざしで」

「人間をかわいいがるような」とあります。これは、「まぶるでくのような」というように、ほかの物にたとえている表現です。(「比喩」といいます。)

【資料B】で、まるで人間のようにかわいいものとは何でしょう。注目してほしい部分に、「カラスのことを」と書いてありますね。ですから、ここでの「可愛七つの子」はカラス となります。推薦する文を書くときに、大切なことがいくつかあります。

二

- ① 効果的に表現するために、資料を使う。
- ② おすすめの物のどんなどころが「よい」のか、具体的に書く。
- ③ 相手にすすめる表現を入れる。

これらのことを、読み手に合わせて、もりこんでいけばよいのです。今回は、読み手が友だちです。様々な書き方が考えられます。ていねいな言葉づかいにしたり、話し言葉のようだったり、作品の内容や伝えたいことに合わせて書き方を選べばよいでしょう。

- ① については、「鈴木さんの立場になって」と問題に書かれています。鈴木さんは、【資料A】を読み「七つの子」をますます好きになりました。ですから、ここでは【資料A】をもとにして書くことが求められています。
- ② については、資料や詩を読んで「よい」と思うことを書きます。これらに③を加え、八十字以上百字以内という条件でまとめます。

①効果的に表現するために、資料を使う。

カラスの鳴き声を「かわいい」と息子に教えた野口雨情。カラスのことを話しながら、実は息子のことを「かわいい」と

言ったのです。親のやさしさがぎゅっとつまった、すばらしい作品です。

みなさんも読んで下さい。

②すすめる物のどんなどころが「よい」のか、具体的に書く。

③相手にすすめる表現を入れる。